



もうすぐクリスマス。プレゼントには何をもらおう?とワクワクしている人もいるかもしれませんね。



茂市久美子・作  
柿田ゆかり・絵  
講談社

『つるばら村の理容師さん』のこのはさんも、クリスマスに素敵な贈り物をもらいました。贈り主はなんとモグラ。このはさんが庭にたてたモグラよけのかざぐるまを冬になったので片付けると、風力発電をしているから出しておいてほしいとモグラに頼まれました。モグラよけのつもりが役に立っていたなんてと驚きますが、友人からも借りて4本も立ててあげました。するとお礼にクリスマスパーティーに招待されます。風力発電で得た電気でツリーが点灯し、動物たちと楽しい時間を過ごした後、モグラから素敵なプレゼントをもらいます。さて、それは一体?草木が好きなこのはさんにぴったりの贈り物でしたよ。つるばら村シリーズはパン屋さんやレストラン、大工さんなどいろいろなお店に不思議なお客がやってくるお話がたくさんです。

プレゼントはもらうのも嬉しいけれど、喜ぶ顔を思い浮かべながら用意するのも楽しいですよね。『とびきりすてきなクリスマス』の主人公10歳のエルッキは10人兄弟の真ん中。楽しみなクリスマスがもうすぐとう頃、1番上のお兄ちゃんの乗った船が行方不明にな



リー・キングマン・作  
山内玲子・訳  
岩波書店

つてしましました。無事を信じて待ちながらも、不安で沈みがちな家族。いつも家族それぞれにプレゼントを用意してくれていた兄がいないことにがっかりしていたエルッキですが、兄の代わりにプレゼントを作ることを思いつけます。みんなに内緒で材

## 12月号「心のこもった贈り物」

鈴木千尋／和光小学校学校司書

料を集め工夫して家族全員分作り、いよいよ迎えたクリスマス当日、素敵なことが…?今の季節にぴったりの心温まる物語です。

さて、誕生日にも贈り物はつきものです。でも、『なんでももてる(?)男の子』のフライは7歳の誕生日に欲しいものが思い浮かびません。大金持ちで、たくさんのおもちゃや自分だけの遊園地やサファリパークなど何でも持っていたからです。そこで召使いが提案したのは、普通の男の子を招いて



イアン・ホワイブラウ・作  
石垣賀子・訳  
すぎはらともこ・絵  
徳間書店

うらやましがれること。それは楽しそうとさっそく、ごく普通の男の子、ビリーと飼い犬のピュンピュンが連れてこられました。けれども一緒におかしのおしろなどで遊んで過ごすうち、フライは逆にビリーがうらやましくなってしまいます。そして、本当に欲しいものに気がつきます。それは何だったのでしょうか?

クリスマスが終わった後にもらえて嬉しいのはお年玉ですね。日本では室町時代から折形といって贈り



和紙ってなに?  
編集室・編  
理論社

物を和紙で包む礼法がありました。お年玉も折形で包んで渡していたそうです。折形がのちに折り紙遊びに発展したことが『くらしのなかの和紙』(和紙ってなに?4)を読むとわかります。また、人生の節目に和菓子を送る風習があ

り、和紙はそれを包むことにも使われました。和菓子自体を包む、箱にも水引きというより掛け紙をするなど日本の贈り物と和紙には深い関わりがあります。贈る心を感じながら、日本の伝統に触れてみてください。

